

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
松田素二		matsuda.motoji.6z@kyoto-u.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
松田 素二		京都大学 文学部 文学研究科 / 教育学部 教育学研究科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会学演習II(社会学実習)	KYTa-150701-0	20人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

調査の組み立てから報告書の作成まで、つねに細かいコミュニケーションが要請され、学生の調査マネジメント能力を大きく伸ばしていると実感される。熊野灘沿いの漁村、吉野山系の山村に独自の文化と社会組織を育み、大学の教室では学ぶことのできない社会の現実、とりわけ過疎化、高齢化、産業基盤（農林水産業）の弱体化などの困難に直面している地域社会の実態をそこで暮らす人々から学ぶことができた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

地域にまなぶ

2. 調査の内容／概要：

本授業の目的は、フィールドワークの手法を学習しながら、以下の四点を基軸に地域社会調査を企画実行することにある。その四点とは、第一に、地域社会が育んできた社会編成の制度と智慧を学びこと、第二に、地域社会が直面している困難（農林漁業の困難、後継者不足、過疎化、高齢化など）の実態を学び、その対応を考えること、第三に、東海、南海、東南海地震による甚大な被害が想定される地域が、それに対処するためにどのように対応を準備しているのか（できていないか）について検討すること、そして最後に、地域の人たちと協同しながら地域の近未来像を考えることで地域に調査の成果を還元すること、である。調査地は一九九八年以降、地元自治体と連携して本研究室が地域社会調査（「地域に学ぶ」）を実施してきた三重県南部東紀州地域である。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

熊野市全域、御浜町全域から4集落を選定。

4. 主な調査項目：

三重県熊野地方の小集落のもつ過疎化、高齢化、産業基盤（農林水産業）の弱体化などの困難に直面している地域社会の実態を知る。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

インタビュー調査と文書、統計などの収集、実地体験。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

6月予備調査（1泊2日）、9月本調査（3泊4日）、11月補充調査（1泊2日）・ 三重県熊野市および御浜町、20名

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

じっくりと長時間をかけて聞き取りをおこなうことを目指しており、全員参加および各班の代表でおこなう予備調査、本調査、補充調査のほか、各班（本年度は4班）の判断で班別調査もおこなっており、聞き取り、史料・資料調査の量・質はかなり高い。なお、プライバシーの問題などに配慮して、分析・表現・公表をおこなう必要も強調している。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

これまでに蓄積されてきた報告書の分析方法と項目とを継承しながら、100年の変化を適確に押さえるための歴史社会的研究の研究史やライフヒストリー理論などの文献研究を行う。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

「小さな社会」それぞれの「むら」の抱える困難とそれに立ち向かう試み、さらにはその背景にある近年の変化などを学ぶことができた。また、これらの村、以前に実習で訪問したことがあり、そのときと現在との違い（わずか5年や10年ほどなのですが）に目を向けることができ、現在の視点から再度見直して、この間の変化の大きさを実感することができた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

印刷中